

芒種の候 宮崎県自衛隊協力会 青年部会 宮崎支部会員に於かれましては、益々ご清福の段、大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げねばなりません。

去る五月二十日の藤原四十三連隊長歓迎会では、二十五代目にして初の地元出身と云う事で、各関係者の期待も誠に大きいものがあるように感じました。

同連隊長は父も自衛官で、都城駐屯地から僅か三百以に曾てのご実家があり、西高から防大三十二期に進んだ新進気鋭の四十五歳です。

同連隊第二中隊の警備担当地区は宮崎市でもあり、同席した山本中隊長にも「当市への災害派遣の折は呉々も宜しく」とお願ひしておきました(笑)

また五月二十二日は、昨年口蹄疫災害派遣の為中止されたえびの駐屯地創立三十周年記念式典が雨の中肅々と挙行され、参加して来たところ です。

さて東日本大震災や福島原発の復興も進まぬ中、民主党政権は相も変わらず権力闘争に明け暮れ被災民不在の政治空白が続いていますが、その間隙を付くように露中の空軍機は我が領空に近づいて威嚇したり、中国空軍機に至っては海自護衛艦に異常接近して挑発すると云う蛮行を繰り返しています。

特に尖閣諸島に対する中国の圧力は凄まじく、三月十九日の香港東方日報紙は「震災で日本が弱っている今が、尖閣奪還のチャンス」と論評し、尖閣領有を主張する世界華人保釣連盟は「六月十七日の沖繩復帰日米調印四十周年に合わせて香港、アモイ、台湾漁船一千隻で尖閣諸島を取り囲み上陸する」と宣言し、正に虎視眈々とその準備に着手しているかのようです。

九州の歴史を紐解けば尖閣諸島を開拓されたのも福岡の方を中心とする九州の先人達であり、さらに遡れば元寇に雄々しく立ち向かい、そしてあの大東亜戦争では九州各地から五千近い特攻機や戦艦大和等、沖繩そして本土防衛の為に撃し数多の英霊が散華された、古より祖国防衛要衝の地でもあります。

そのような歴史や時代背景の中、この宮崎市に日本会議宮崎県支部を設立しようとの機運が高まり、現在数人の有志が集い準備委員会を立ち上げました。

この「日本会議」は、日本の誇りを復活させるべく一群の有識者が平成九年に立ち上げたもので、既に五月八日から延岡支部はその活動を開始しています。

県央支部も、先ずは七月十日(日)十四時からの設立準備大会を成功させ、来る十一月十二日の設立総会本番に向けて会場設営などを鋭意準備中です。

尚、同封パンフレットの倉本聰監督「帰国」はご存じかとは思いましたが、敢えてご紹介させて戴きますので、七月十日と同様にご予定賜れば幸いです。

お願ひ事ばかりで誠に恐縮ですが、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成二十三年六月五日

宮崎県自衛隊協力会 青年部会 宮崎支部 支部長 小倉和彦